記事
Megumi Kakechi · 2021年4月29日 2m read

ミラーリングの機能について

これは InterSystems FAQ サイト**の記事です。**

InterSystems のミラーリングを使用することで、以下2つの目的を達成できます。

1. 自動フェイルオーバ
2. ディザスタリカバリや、ビジネスインテリジェンスのためのデータベースの複製

1 については、2台の InterSystems 製品を利用し、プライマリサーバの InterSystems
製品に障害が発生した場合は、もう片方の InterSystems
製品に自動フェイルオーバが行えるミラーリング構成です。

2 については、1台のプライマリサーバである InterSystems 製品から、遠隔地も含め、任意の拠点にある複数台の InterSystems 製品へ（＝非同期ミラーメンバ）データベースファイル（InterSystems
IRISは「IRIS.DAT」、Caché／Ensemble／HealthShareは「CACHE.DAT」）のミラーリングを行います。
（また、複数のプライマリサーバから1台の非同期メンバのInterSystems 製品へのミラーリングも行えます。）

詳細は以下ドキュメントをご参照ください。
InterSystems IRIS ミラーリングについて【IRIS】
ミラーリングについて

あわせて、以下の記事も是非ご覧ください。
Cache Mirroring 101：簡単なガイドとよくある質問

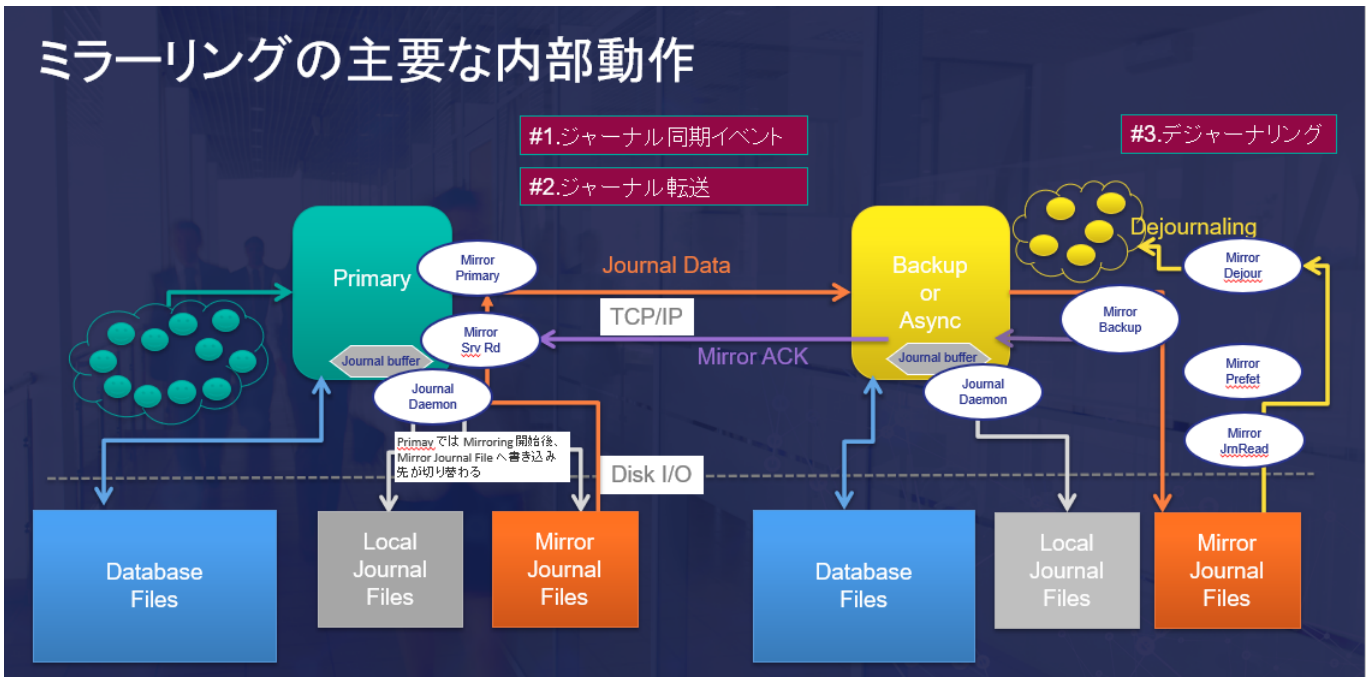
★おまけ

ミラーリングの、主要な内部動作をご紹介します。
主要な内部動作は、 以下の**3 つの動作**になります

プライマリメンバのユーザによりデータが更新されると
そのジャーナルデータが、メモリ上のジャーナルバッファに格納されます。
動作#1 のジャーナル同期イベントで、ジャーナルデーモンによりジャーナルバッファがジャーナルファイルへ書き込まれ、
動作#2 のジャーナルデータ転送が開始されます。

ジャーナルデータがバックアップメンバに到達するとバックアップメンバは プライマリに Ackを送信します。
ここまでの処理が、動作#1 のジャーナル同期イベントの動作になります。
この動作#1 のジャーナル同期イベントは、フェイルオーバのメンバ間のみで行われます。
非同期メンバへのジャーナル転送では、同期を取りながら転送は行っていません。

バックアップメンバや非同期メンバでは、**動作#3** のデジャーナリングが行われます。
このデジャーナルでは、複製したジャーナルファイルを読み取り、データベースへの更新を行います。



※詳細については、2022年3月9日開催「InterSystems Japan Virtual Summit 2022」のセッション「ミラーリングを使用した HA および DR の構成例」のアーカイブ をご覧ください。

#Mirroring #システム管理 #ヒントとコツ #Caché #Ensemble #InterSystems IRIS #InterSystems IRIS for Health

ソースURL:
https://jp.community.intersystems.com/post/%E3%83%9F%E3%83%A9%E3%83%BC%E3%83%AA%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%81%AE%E6%A9%9F%E8%83%BD%E3%81%AB%E3%81%A4%E3%81%84%E3%81%A6